

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム



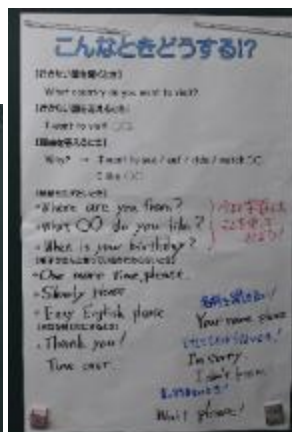
活 用 事 例



概 要	
学 校 名	館山市立九重小学校
活用方法	「みんなで『わかる』『できる』を実感する授業づくり」を研究テーマに、四つの学習過程において、ユニバーサルデザインの視点を生かした授業実践を行っている。みんなのおもいや考えをつなげる中で『わかる』喜びを味わえるように、「自分で取り組む」時間の確保、おもいや考えを伝え合い「広げ深める」場の工夫、自分の言葉で学んだことを「まとめあげる」活動を中心に授業改善を図っている。
成 果 等	<p>指導者自身が、「児童が本授業で何がどのようにわかったと実感できればよいか」を意識した授業づくりをすることができた。その中で思考を促し、表現につなげる手立て等を工夫したことにより、児童が自分の考えを伝え合う良さを実感できるようになってきた。</p> <p>また、「自分の言葉でまとめを書く」活動を継続することにより、書くことへの苦手意識が少なくなり、記述力において成果が表れ、学力の向上につながった。</p>

既習事項やポイントの提示（外国語）

外国語において、やり取りを続けるためのポイントを確認・提示し意識化を図ることにより、毎時間の Small talk や英語でのやり取りの活動に少しずつ自信を持って取り組めるようになってきた。



ICT 活用（算数）

タブレットで出題することにより、思考の時間の確保とともに、画面共有により、自分の考えに自信が持てない子にとって、友達がどのように考えているのかヒントを得ることにつながった。



自分の言葉で再現する活動（算数）

友達の考えを、違う児童が自分の言葉で話す活動（再現活動）を繰り返すことにより、友達の考えを取り入れたり、自分の考えを確かなものにしたりとすることができた。



自分の言葉でまとめを書く（算数）

導入を工夫し、学習問題をできるだけ「どのように」「どうやって」「どう」「なぜ」など疑問形にしてつくる。本時で身につけさせたい考えを子どもから引き出したり、印象づけたり（キーワードの明確化）することにより、まとめを書くときの手がかりにした。振り返りでは、全体でまとめを話し合ったり適用問題を解いたりする中で得たことを、〇〇日記として自分の言葉で表現することで、学習したことを「個」に落とし込むことができ、何ができるようになるればよいかを意識した主体的で深い学びへとつながった。

主語をそろえる

疑問形にする

キーワードを明確にする

クラスとしてのまとめをつくる

重さはどのように計算するのだろうか。

①(式) $800g + 600g = 1kg 400g$

② $1kg 100g - 200g = 900g$

③ $1kg = 1000g$ だから、あまた $400g$ をわすれない。

④ $1kg = 1000g$ をつかって $1100g - 200g = 900g$

重さはひ算もたし算も $1kg = 1000g$ をわすれずに計算する。

疑問形にする

主語をそろえる

キーワードを明確にする

算数日記を書く

自分の言葉でまとめを書く

重さは、どのように計算するのだろうか。

① $800g + 600g = 1kg 400g$

② $1kg 100g - 200g = 900g$

③ $1kg = 1000g$ だからあまた $400g$ をわすれないようにした。

④ $1kg = 1000g$ をつかって $1100g - 200g = 900g$

重さはひ算もたし算も $1kg = 1000g$ をわすれずに計算する。